

(社)沖縄県設備設計事務所協会創立20周年 —社団法人発足記念祝賀会—

創立20周年・記念祝賀会ごあいさつ

(社)沖縄県設備設計事務所協会
会長 宮良 洋三



20周年を迎えて

本日は、私ども(社)沖縄県設備設計事務所協会創立二十周年・社団法人発足記念祝賀会にご臨席を賜り感謝申し上げます。
さて、私共協会は今年で創立二十周年の大きな節目を迎えましたが、沖縄県の設備設計の道はさらに古く、琉球政府時代につくったものであります。当時、一般建築における設備設計の需要は少なく、米軍基地の建設地の中に設備設計の工事が生れ、高い水準のアメリカの技術を学んできた私達の先輩達が、基地内の施設が増える中で昭和四十四年頃に工事に加われるよう設備専門の事務所を設立したのが始まりです。

復帰後、沖縄振興開発計画が施行され公営・民営共に県内の建設需要が急速に増え、設備設計も合わせるように需要が増えました。その間、年々大型化かつ多種多様と複雑化していく建物の量的・質的なニーズに応えるために私達は先進技術の導入、さらに若い技術士の育成と設備事務所間の連携が強くなり、昭和五十八年に県下設備設計事務所が寄り添って技術団体として「沖縄県設備設計事務所協会」が発足しました。発足当時は、まだ社会の理解は浅く、設備業務は建築の下請けでしかありませんでした。例えば、工事を完了しても工事現場の看板に私たちの名前が上がることはありませんでした。協会として、それらの状況を打開するには「設備の重要性、必要性を認知してもらう事が大事だ」と関係団体と共催で技術講習会を開催したり、独自の広報紙を発行し、関係官庁、関係団体に対して配布しました。

私どもは、社会的に認知度を高めるため公益法人化へ取り組み、今年二月二十六日に沖縄県に許可頂きました。協会発足から二十年来の悲願が達成したわけですが、これからが本当の私達の仕事の始まりだと思っております。今後は、法人組織としての責務を重視した上で、地域社会にいくらかでも貢献できるよう活動を強めていく考えでございます。同時に、構成員である個々の設備事務所も経営者の意識改革、技術者の向上を図りたいと思っております。

これまで当協会に対してたゆまない支援と支持をいただきました各団体各位に対しお礼を申し上げますと共に、許可を頂きました沖縄県に対しては、格別なご配慮と私共設備設計における重要性、必要性に対する深い認識を示して頂いたことに心よりお礼を申し上げ挨拶と致します。



一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会